

十勝地域 新規就農者紹介

大澤育成牧場 大澤 然さん



経営の概要

就農地域：北海道 本別町
就農方法：新規参入(第三者継承)
就農開始：令和4年4月
営農形態：乳用牛育成牧場(預託)
受入頭数：220頭
経営耕地面積：7ha
農業従事者：経営主、妻、従業員1名

(取材日：令和6年8月21日)

✓大澤育成牧場 大澤 然さんのこと

経営主の大澤 然さんは兵庫県出身。非農家の家庭で育つ中、近所の牧場との触れ合いを通して、小学生の頃から「農家になりたい!」との夢を抱き続けます。

高校進学時に親元を離れ、岩手県に山村留学することを決意。留学先の高校では、町営牧場での農業研修などを通じ酪農・畜産に関する経験を積む中、本別町の北海道立農業大学校(以下「農大」という。)出身の教諭からの勧めもあり、実践的な営農技術を高めるため、卒業後の進学先として同農大を選択。在学時には畜産分野を専攻し、家畜の飼養技術や営農の基礎を学びました。そうして、令和4年4月に新規就農を実現し「今は、やりたかった仕事に就くことができ幸せです。」と笑顔を見せました。

✓本別町で就農したきっかけ

農大在学時に本別町の農業環境や人の良さを実感していた大澤さんは、卒業後も町内で就農することを考えます。同町が実施する新規就農支援を知り、農大で学ぶ中、乳用種の育成牛を酪農家から預かり成畜にする預託農家という経営と出会います。そんな折、町内の酪農家から乳用牛を預託されている山西育成牧場の山西代表が離農を検討していることを知り、乳用牛の預託農家を第三者継承することを決意しました。

✓第三者継承を振り返って

継承元の山西育成牧場は、大澤さんが農大在学時のアルバイト先でした。アルバイトを通して山西さんから仕事との向き合い方などを学ぶ中、双方の信頼関係が深まりました。そして、本別町農業担い手育成センター(事務局：本別町役場)のサポートを受け、事業継承を前提とした本格的な農業研修が始まりました。2年間の農業研修では、山西さんから受けた営農の指導内容を自分の技術として身に着けることに苦勞されたこともあったそうです。大澤さんは、「自分の就農意思が強かったこと、酪農家さんの大切な牛を預かるという責任を思えば、当たり前前の指導として受け入れることができました。」と第三者継承を振り返りました。

✓新規就農を目指すみなさんへ 大澤さんからエール

就農して2年になりますが、自分の努力が牧場経営の成果に繋がっているという手ごたえと自分の成長を感じています。就農を目指していた頃にたくさんの人と出会って多くのことを学び、将来のために色々と考え様々な行動をしました。失敗もしましたが、新規就農できました。新規就農するための行動をやめない限りは就農できると自分は思います。

✓地域の応援団から一言

大澤君が農業研修を受けた山西元代表の技術指導は、就農にかける覚悟を求めるような厳しいものだったと記憶しています。2年間の農業研修期間中にほとんど寝ることがなかったという山西元代表が、研修の最後になって「もう大丈夫だ。」と大澤君に声をかけていた姿が心に残っています。大澤君には、本別町農業を支えてくれることを期待しています。(本別町役場職員)



大澤さんは農業大学校で乳用牛の預託(育成)に出会いました



土地、家屋、牛舎、飼料庫を継承



事業継承したトラクター等



パドックでくつろぐ乳用牛